国土交通大臣賞

タイトル	森山の家
タイプ	持家一戸建
構　造	在来木造

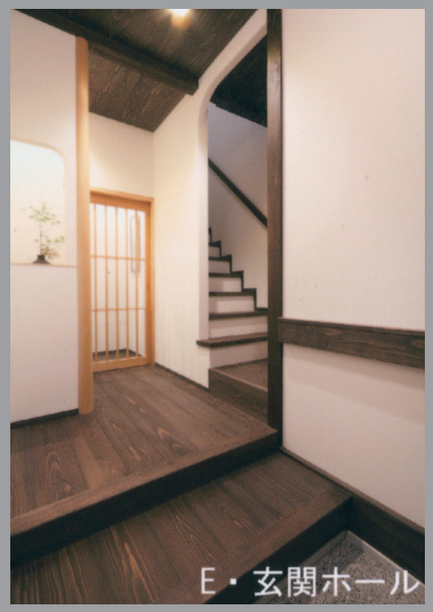
所在地	石川県金沢市
築後年数	約46年
施工期間	65日間
該当工事面積	75m^2
総工事床面積	75m^2
該当部分工事費	1,300万円
総工事費	1,300万円

居住者構成	15歳以上65歳未満：1人
設計会社	林建築設計工房 ＋ 奥村設計室 担当者：林 正人、奥村 久美子
施工会社	(株)田村 担当者：山口 麻衣子

C・リビング・ダイニング

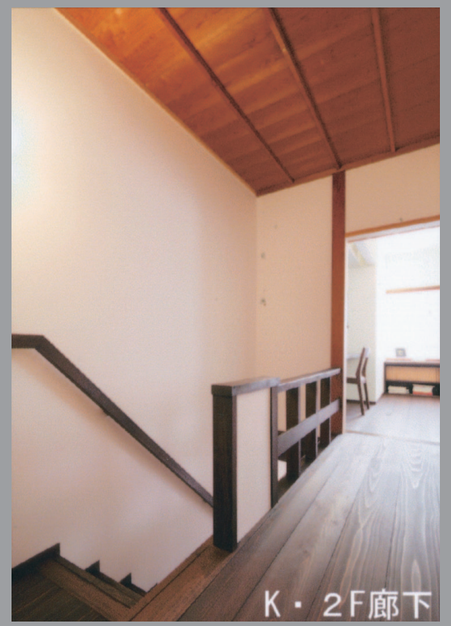
D・リビング・ダイニング

I・玄関


E・玄関ホール

リフォーム前

リフォーム後



＜リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など＞

＜動機＞

・中古物件を購入され、新たな住まいへと再生。
・金澤町家ではないが、町並みに合う金沢らしい外観を希望。

＜設計・施工＞

・外観は景観にも配慮し、瓦葺き、杉下見板張りとし、改修部分には外断熱通気工法としている。
・構造部分で脆弱な箇所については、適切に構造補強をおこなっている。
・1階玄関には、内玄関を設け外物置も兼ねた収納スペースを確保している。勝手口としても活用。
・水周りは、機能的に快適に暮らせるよう一新している。
・内部は、漆喰壁・杉板・根太天井、格子建具など町家の雰囲気が感じられる要素を取り入れている。
・濡れ縁となるようウッドデッキを設け、リビングとの広がりを生んでいる。
・2階は間取りを変えず大容量の収納を機能的に設けている。

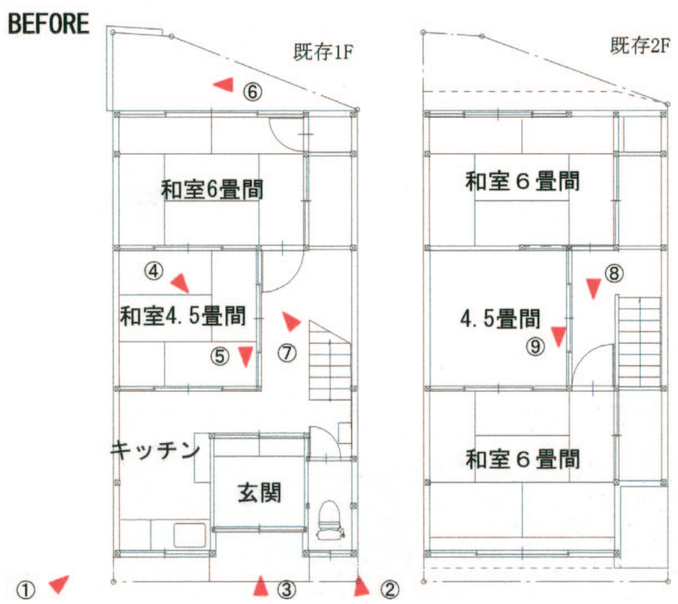
●性能向上の特性

耐震性能　耐久性能　バリアフリー性能　温熱性能　室内空気環境

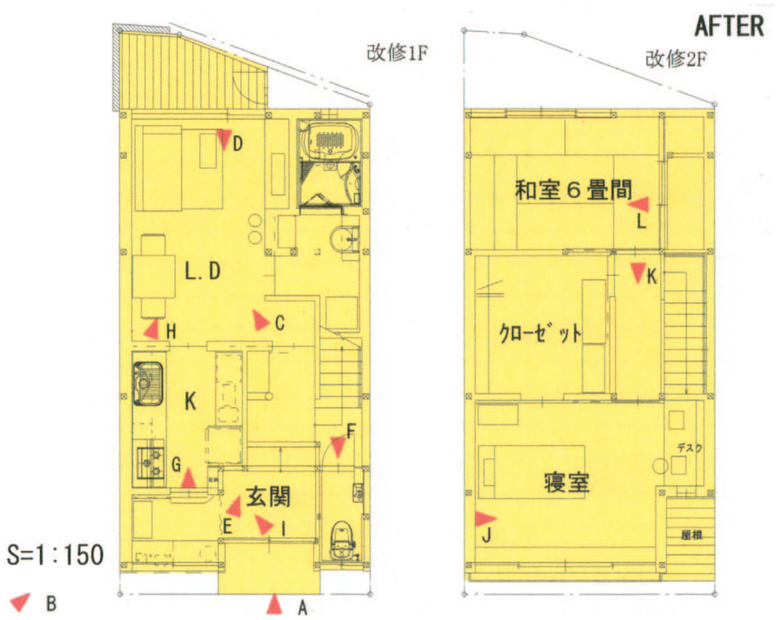
●特に配慮した事項

構造の補強　屋根・外壁の断熱強化　自然素材の仕上げによる室内環境の向上

＜リフォーム前＞



＜リフォーム後＞



リフォーム部位：　居室　台所　浴室　便所　洗面所　廊下　階段　玄関　エクステリア　マンション共用部

講　評

本作品は、単身の施主が、働けるうちに自身の高齢化に備えようと、土地ごと中古住宅を購入し、リフォームしたものである。狭小ではあるが、快適な現代生活が過ごせるよう丹念にリプランニングされ、暮らしやすさはぐんと増幅されている。

実際に訪れてまず感じたのは、生活に対する空間バランスの「程良さ」と完成度の高さである。施主の望んだであろう暮らしが一目で了解され、かつ無理なく維持管理できるような安心感がある。狭さや暗さを感じさせない間取りや天井高、光の入り方…など全般に渡って破綻がなく、老練ささえ感じさせるデザインである。外装の防火仕様など法令対応にもプロとしての目が行き届いている。耐震性や断熱性、バリアフリー性などの基本性能も必要な範囲で向上させている。気楽さを感じるのは、このいわば中性能の「ゆるやかさ」によるものである。

通常、狭小空間の改修では、新旧の材料が角突き合わせることが多い。また寸法割りや納まりも厳しくて、落ち着いた感じが出にくいのであるが、本件にはそういった破綻がほとんど見られない。たとえば、長年の使用で反りなどがある敷居を使い続けるために、既存建具側の調整巾に余裕を持たせるなど、リフォーム特有の「逃げ」の取り場所や取り方が巧みだからである。

スケルトンに近い改修、厳しい工期にもかかわらず、工事費も意外なほど抑えられている。高価な材料を使っているわけではないが、貧相な空間ではない。これは、設計者や施工者の献身的な努力と並んで、彼らが参加している「金澤町家研究会」の存在が大きい。この会には、不動産事業者や研究者、行政関係者まで加わって、流通物件の見立て、改修要望と工事内容、補助金の扱い方から費用との調整に至るまで、多くのノウハウが蓄積されているとのこと。本件でも、複数の候補住宅の比較から、他で解体された建物の残材や建具･家具類のストック活用まで、ソフト･ハード両面に渡り、高いレベルで対応している。

しかも本件のリフォームに関わった人たちは、全員30～40代である。オーソドックスな仕組みでも、地方都市で、若い世代を中心に、確実に機能している点には頼もしささえ感じる。

このような質の高い作品と、作り出す仕組みの存在は、高齢社会への不安がますます増大する今後、住宅改修を考える高齢者予備軍の人たちに、大いに参考になるだろう。コストを抑えつつ、地方文化に根ざした品格ある暮らしを実現させたこの住宅の意義は大きい。国土交通大臣賞にふさわしい作品と判断した。